

日本民謡の地域性研究に向けての試論

——日本民謡の日本海側と瀬戸内海側——

小 島 美 子

-
- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. テーマ | 4. 島根県の民謡の音階 |
| 2. 方法と資料 | 5. 広島県の民謡の音階 |
| 3. 山口県の民謡の長州と周防の音階分布上の
相異 | 6. 核音の不明確なメロディの存在 |
| | 7. 2種の音階分布相異の意味 |
-

論文要旨

日本民謡には、一般に西物と東物の違いがあるといわれているが、私は以前に山口県と秋田県の民謡を例として、『日本民謡大観』所載の民謡を分析し、音階や旋律法などいろいろな点でこの2つにはやはり大きな違いがあることを明らかにした。

本稿では、県全体としては西物の特徴をもつ山口県の民謡を、さらに日本海側の長州地方、瀬戸内海側の周防地方に分けて同じ資料を集計し直し、日本海側と瀬戸内海側では違いがないかどうか調べてみた。その場合、前論文でもっとも鮮やかな違いが現われた音階を本稿ではとり上げた。資料の多少や、民謡の種類による音階の偏りなど、偶然的要因を考慮しても、なお違いがはっきりしていたからである。

その結果、長州では周防よりも民謡音階がかなり大きい割合を占めることがわかった。そのため日本海側に隣接する島根県と、瀬戸内海側に隣接する広島県の民謡の音階を分析してみた。その結果、島根県の民謡は圧倒的に民謡音階の世界であることが明らかになった。とくに島根県の東半分にあたる出雲では、秋田県を超えるほどの高い比率で民謡音階が現われた。これに対して広島県側では、民謡音階の曲が約半数あり、律音階系の曲（律音階とその変種、都節音階とその変種を含む）が残り半分を占めていた。やはり日本海側と瀬戸内海側では大きな差が現われたわけである。

これらの結果をいささか飛躍して、音階が比較的変わり難い要素であることを考え、日本音楽の起源の問題にまで広げて考えてみると、民謡音階の民謡を歌っていた人々は、日本海側の地に入り、そのまま瀬戸内海側に進むのではなく、東に進んだ可能性も考えられるし、日本海側には継続的に民謡音階の刺激があった可能性なども考えられるのではないかと思われる。

またこれらの音階分析の過程で、核音とテトラコルドの存在が不明確な例が約20曲現われた。このような形はこれまでまったくなかったわけではないが、この場合のようにまとまって現われた例は珍しく、今後音階上の問題として検討する必要があるだろう。